

にしき あ ゆ み  
**錦 亜 友 美 さん**

学校教育学部自然系コース2年

平成3(1991)年三木市生まれ。市立三木中学校時代は卓球部で活躍。ダブルスで兵庫県3位の成績を残す。22(2010)年に入学し弓道を始める。今年6月に初段取得。8月の近畿地区国立大学体育大会女子個人の部で3位に入った。



↑優勝、準優勝の選手と(右端が錦さん)



**キラリな人**  
SHINY PERSON

## 弓道部の雰囲気は最高 4部リーグへの 昇格を目標に 精進したいです

昨年(2019)年は射の基本動作である射法八節の習得に時間を費やした。試合での結果は二の次だった。彼女自身、今回の躍進の予兆を感じたのは今年7月の全日本学生弓道選手権大会の個人戦。4射3中以上で予選通過のところ、4射全てを的中させた。「ようやく自分の射形が固まってきたなど、手応えをつかめました」

「先輩にも恵まれ、弓道部に入って本当に良かったと思います。今年は5部に上がり、来年は上位に入り4部に昇格して引退を迎えたいです」。柔和な表情に、的を射抜くような鋭いまなざしが宿った。

弓道を始め、1年4カ月ながら、8月の近畿地区国立大学体育大会で女子個人3位に輝いた。

「正直、ラッキーでした。本当にあっけなく3位以上が確定しましたから」。4射2中以上の予選は出場60人のうち13人が通過。決勝は、一矢ずつ射て的中した者だけが残り、いく射詰めで、1射目を的中させたのが彼女を含めて3人だった。しかし、2射目で失敗し3位にとどまった。

「的の真上スレスレに外してしまいました。私以外の2人は優勝候補。食らいついていけなかったのが未熟なところですね」

好成績を挙げるには技術もさることながら、精神面の強さも要求される。試合では横一列に並んで矢を放つ。人数が多い予選だと左右の間隔は1メートル程度しかない。緊張の中でいかに自分の射ができるか。冷静さを保つ術は、中学時代に卓球部で培った経験が大きいと語る。

「卓球も弓道も常に自分と向き合うことが大事。卓球の競り合いで磨いた精神力は弓道にも生きています」

弓道部に入部したのは、見学の時に触れた和気あいあいとした雰囲気が入ったからという。兵教大は昨年10月の関西学生弓道連盟のリーグ戦で、5部から6部に陥落。再昇格には彼女の活躍が欠かせない。